

西諸県地域の普及活動

令和7年9月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 西・北諸県地区農業経営指導士合同研修会を開催

25日に、北諸県地区の農業経営指導士と管内指導士との合同研修会を開催しました。今年度は、小林市とえびの市の果樹の関連施設4か所の視察研修を行いました。

小林市では、指導士の種子田健さん経営する(株)種子田フルーツでぶどう・なしの剪定技術や直売所、観光農園の運営などについて学びました。

えびの市では、栗の生産者圃場、JAえびの市の選果場、中利缶詰株式会社霧島工場を訪れ、生産流通・加工について学びました。

夜は、指導士の倉薗嘉枝子さんの息子さんが経営する「ビーフクックくらぞの」で交流会を行い、機内食にもなった牛肉のハムなど、六次産業化の取り組みを学びながら会員相互の交流が深まったようです。

普段の経営の中では触れることが少ないので、各所で多くの質問が出るなど実りの多い研修となりました。



【JAえびの市の栗選果場を視察】



【樹齢100年を超える長寿の梨の木を視察】

2) 9月期子牛郡品評会が開催

10日に、小林地域家畜市場において、JAみやざき西諸県家畜市場運営部主催による令和7年9月期子牛郡品評会が開催されました。

9月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た28頭の出品があり、審査の結果、優等賞に7頭、壱等賞に10頭、弐等賞に11頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市の中島ちどり氏出品の「かよ」号（桃白鵬一耕富士一美穂国）、2席は小林市の牛商丑力出品の「ふゆき 696」号（孔明桜一奥友博一美穂国）、3席は小林市の上之薗正信氏出品の「あかつき」号（耕富士一勝美利一美穂国）が受賞されました。受賞牛は、発育良好で体積、側方から見た深み・伸び、中軸・後軸の充実感に秀でている点が評価されていました。



【優等賞首席 かよ号】

3) 第16回全日本ホルスタイン共進会宮崎県予選会が開催

24日に、都城家畜市場において、第16回全日本ホルスタイン共進会宮崎県予選会が開催されました。

第1部から20部に県内3地域から51頭の乳用牛が出品されました。

西諸県地域からは20頭が出品され、高原町の清水豊氏出品の「SWF ジヨーデイアール カラバワー RED」号、えびの市の前原直希氏出品の「HF JP ジエイコブス ユニクス ラニ ET」号、高原町の合同会社石山牧場出品の「SH 743J ジヤガリーマーチン」号が宮崎県代表牛に選ばれ、10月25日から26日に北海道で開催される第16回全日本ホルスタイン共進会への出場が決定しました。



【代表牛決定審査】

4) 普通期水稻成熟期調査の実施

16日に、西諸管内の成熟期調査を実施しました。稈長は平年より高く、穂長は平年並みでした。しかし、穂数が一部地域を除くと平年より少なく、1穂粒数も平年より少ないため、m²当粒数による収量は平年並～やや少なくなると見込んでいます。病害虫の発生は、一部ほ場で紋枯病の被害が散見されました。

また、9月下旬～10月上旬にかけて試験ほ場の坪刈りを行い、かけ干し乾燥後に技術員会で収量調査を行う予定です。



【生育調査】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

24日に、えびの市において肉用牛繁殖経営での就農希望者へ相談対応をしました。今回が第1回目の相談会で、就農計画の概要確認と活用の可能性が見込める各種支援策について関係機関から説明が行われました。今後、必要な機械設備等の見積もり取得や相談者の経営計画がより明確になった段階で、収支計画等の検討を進めていく予定です。

※就農相談対応 1者1回 (内訳 えびの市:肉用牛繁殖1者)

2) 新規就農者へのフォローアップ

2日と16日には高原町で、11日には小林市で、経営開始資金等を受給している新規就農者に対して、就農状況の確認や経営状況の確認を行うフォローアップが関係機関参加のもと行われました。フォローアップでは、令和6年決算や販売状況の振り返りを行った上で、技術面や経営面からの課題の明確化と今後の対応について検討しました。

今後も新規就農者の定着促進を目的として、定期的にフォローアップを実施していく予定です。

(内訳 小林市:施設野菜1者、高原町:施設野菜2者)



【生産状況の確認】

3) 農業者セミナーの開催

①第3回アグリ★レベルアップセミナーを開催

4日に、経営管理能力の更なる向上を目指した研修会を開催しました。研修は宮崎県よろず支援拠点の糸山秀彦氏を外部講師に、事業承継に関する講義を行いました。事業承継の方法や親族内承継のメリット・デメリットや、留意点、税金等についてわかりやすく説明がされました。

また、講義の終了後は個別相談も行いました。研修への参加者も多く、関心の高さがうかがえ、来年度以降も生産者のニーズを捉えて研修会を計画していきます。



【セミナーを熱心に聞く受講者達】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 特Aほ場巡回・新品種現地検討会を実施

22日に、えびの市管内の生産者ほ場において、特Aほ場巡回、並びに新品種（南海189号）の現地検討を行いました。

新品種（南海189号）は既存品種ヒノヒカリと比べて収穫が9日程度遅れるため、収穫作業を分散させることを目指しています。

専技やJA指導員、生産者とともに、ほ場の管理状況及び収穫時期予想について確認し、今後の収穫について検討を行いました。

今後、収量調査を行い、収量や品質について既存品種と比較を行う予定です。



【ほ場の現地検討】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜产地の確立)

1) さといも分離収穫について考える研修会

19日に、えびの市立久井農園ほ場において、さといも分離収穫状況を調査、動画撮影し、ファイルの共有を行う形式での研修を行いました。立久井農園では、鉄工作技術を有するため、省力機械の試作による収穫作業を行っています。

撮影時に同行した法人からも分離収穫の機械化が見事に出来ていることを感心していました。

今後も、管内法人の優れた農業技術の共有、意見交換を行うことでスマート農業の推進に向けた取り組みを行って参ります。



【さといも分離試作機で収穫中】

2) レーザーレベラー施行前の畠の勾配・凸凹調査

16～18日に、九州沖縄農業研究センターの協力を得て、四位農園ほ場においてレーザーレベラー施行前のドローン空撮による畠の勾配・凸凹調査を実施しました。

事前調査により、どの方向に、どれくらいの土を運んでいけばよいか、施工計画に役立つものとして期待されます。



【ドローン空撮前準備】

(適正な管理と飼料基盤に立脚した強い畜産経営体の育成)

1) セリ前講習会の実施

14～16日に、小林地域家畜市場において、子牛セリ市開始前に講習会を行いました。9月は「子牛の発育①～胎仔期～」をテーマに講習会を行い、延べ150名程度の参加がありました。

参加者からは、飼料設計について質問があり、当講習会を通して妊娠末期の母牛の栄養管理について見直すきっかけを作ることが出来ました。

今後も継続して、基本的技術の紹介を行っていきます。



【講習会に参加する農業者】

2) 令和7年度和牛生産農家座談会が開催

17日に、JAこばやし野尻支店、18日にJAこばやし高原支店、19日にJAこばやし本所において、令和7年度和牛生産農家座談会が開催されました。普及センターからは「生産性向上・降灰対策・良質な牧草と土づくり」の講習と、講習会・セミナーの案内をしました。3日間を通して130名程度の参加がありました。

参加者からは、宮崎牛が目指すべき姿への意見や、子牛の疾病についての質問があり、関係機関との活発な意見交換が行われました。



【座談会に参加する農業者】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) 第40回 JAえびの市いちご部会定期総会

9日に、JAえびの市本所にて、標記総会が開催されました。議事では全ての議案が可決され、新たな年度がスタートしました。普及センターからは、今年度西諸県管内で行っている育苗期の高温対策実証について、その状況や結果を説明しました。部会長からも高温への対応が重要というお話を頂き、来年度以降も実証を行っていくこととなりました。

えびの市では9月上旬から定植が開始されています。安定して収量がとれるよう本圃での温度管理、肥培管理について指導を行っていきます。



2) JAこばやしきゅうり部会促成きゅうり栽培講習会

29日に、小林集送センターにて、標記講習会が開催されました。普及センターからは、「栽培管理について」と題し、今作から取り組む低段主枝摘芯の技術や、昨年問題となったウリノメイガの対策等について説明を行いました。その他、メーカーからは天敵の効果的な導入方法や、きゅうりの品種毎の栽培管理について説明があり、生産者は熱心に受講していました。

促成きゅうりは10月から定植が始まります。今作も良いきゅうりを生産できるよう、環境制御技術などの指導を行っていきます。



【講習会前の部会長あいさつ】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) JAこばやしマンゴー部会を支援

①定期総会

11日に、ゆ~ぱるのじりでJAこばやしマンゴー部会定期総会が開催され、部会員とその家族、約40名、関係機関約30名が参加しました。今年は開花が約1か月遅れて心配なスタートとなりましたが、販売状況については、販売額が7億を超える過去最高額となりました。定期総会前に開催された出荷反省会において、普及センターから、研修受入体制の今年度の実績と計画について説明をしました。

今後も品質向上と産地維持・発展を目指して引き続き支援を行います。



【販売額7億円突破】

②新旧役員会

22日に、JAこばやし三ヶ野山出張所において、JAみやざきこばやしマンゴー部会新旧役員会に出席しました。普及センターからは、9/15の新・農業人フェアの報告と第2回おてつたびの開催時期について相談し、11月のおてつたびの開催について承認をいただきました。今後も関係機関と連携して研修受入体制を支援していきます。

2) 小林市果樹農業推進対策協議会・JAみやざきこばやし梨ぶどう生産部会 梨品評会

25日に、普及センターにて、小林市果樹農業振興推進対策協議会（以下、果新協）・JAみやざきこばやし梨ぶどう生産部会（以下、JA部会）の梨品評会が同日開催されました。出品数は、果振協から新興4点、新高4点、JA部会から新興4点、新高5点が出品され、計19名の審査員が外観や食味などから審査を行いました。審査結果は、果振協の新興の部で（優等）小原修一氏、（1等）永迫竜矢氏、新高の部は（優等）種子田健太郎氏、（1等）永迫竜矢氏、JA部会の新興の部で（優等）永迫竜矢氏、（1等）小原修一氏、新高の部は（優等）種子田健太郎氏、（1等）岩下清氏となりました。

今後も引き続き関係機関と連携して産地を支援していきます。



【なしを審査する関係者】

（西諸県地域の特色を活かした花き産地振興）

1) ラナンキュラス大苗育苗実証の取組

1日に高原町の生産者作業場において、生産者6名と関係機関4名とで大苗育苗の準備をしました。これは、近年の高温による定植初期の障害を回避するための大苗の効果を検証するためです。参加者はポットに球根を植え付け、大型冷蔵庫で冷蔵処理を始めました。10月下旬まで冷蔵処理した後にそれぞれのほ場へ定植し、その後の生育や開花を確認する予定です。参加者からは大苗育苗の効果に期待する声が聞かれました。



【ポット植え作業する生産者】

2) 高原町花卉部会の定例会が開催

25日に、高原町の現地にて生産者6名と関係機関5名が参加して開催されました。

会員ほ場の巡回では、主に秋ギクの生育状況について、概ね順調であることを確認できました。また、巡回後の定例会では、JAから情勢報告が行われ、9月彼岸出荷や今後の市場の状況について説明されました。普及センターからは、病害虫の防除等について説明しました。生産者からは、しっかりと防除して良品生産する意気込みが述べられました。



【生育状況の確認】

(20年後も生き残る西諸茶産地の育成)

1) 西諸県地区荒茶求評会の開催

26日、普及センターで、管内茶生産者8名（11点出品）及び関係機関13名の参加のもと、茶の生産技術や加工技術の向上を目的とした荒茶求評会を開催しました。

会では、土壤診断、近赤分析結果とともに生産者から提出された荒茶サンプルの評価が行われたあと、専技、茶商、経済連との個別面談形式による意見交換、講評が行われ、各生産者から高品質の茶生産の参考になるとの意見が出ました。今後も引き続き、関係機関と連携して、茶の品質向上に向けた支援を行って参ります。



【荒茶サンプルの評価】

2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

1) いちご花芽検鏡

9月に入り、普及センターでは、いちごの定植に向けた花芽検鏡を実施しています。花芽検鏡とは、いちごの花が分化しているかを顕微鏡で確認することで定植するタイミングを見定めるための作業です。近年、育苗期の高温により花芽分化が遅れる傾向がありますが、今年は品種によって違いはあるものの、概ね順調に花芽分化している状況です。花芽検鏡を受けて、管内では9月上旬から定植が始まっています。いよいよ本圃でのいちご栽培が始まりますので、温度管理や肥培管理など指導を行っていきます。



【花芽検鏡をする職員】

2) いちご指導担当者会

22日に、JAこばやし管内にて、JAみやざき主催のいちご指導担当者会が開催され、各地域のJAや専技、普及センターが参加しました。この担当者会では、いちごの栽培技術向上のため、現地巡回や意見交換を定期的に行うこととなっています。今回は、JAこばやしで行っている炭酸ガス装置を見学した後、今年度実施している高温対策の実証ほ場を巡回し、普及センターが実施している調査結果や対策の効果を確認しました。その後室内に戻り、今作の育苗状況や来作に向けた育苗管理について意見交換を行いました。



【実証ほ場で苗の生育を確認する指導員】

いちごは育苗管理の善し悪しが収量に大きく影響する品目です。良い苗が作れるよう各地域の指導員とも連携して高温対策技術の確立を図っていきます。

3) 第4回西諸県地区果樹技術員会

17日、普及センターにて第4回西諸県地区果樹技術員会を開催し、関係機関11名が参加しました。室内会議では、ぶどう展示ほの調査結果の報告、果樹共進会の推薦者の検討等を行いました。会議後は、高温対策調査として、ぶどうときんかんの生産者それぞれから、実施されている高温対策について聞き取りを行いました。各生産者は手探りで対策を行っている状況でした。また、ぶどう・梨の食味調査も行い、今年の果実品質について共有を行いました。今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【ぶどう・梨の食味調査】

4) 重陽の節句と敬老の日に合わせたキクのアレンジメント

9月9日は「重陽の節句」で、中国の宮中では古くから邪気を払い長寿を願う行事が行われてきました。西諸県地区の花き生産者や関係機関で構成する西諸県地区花き振興会では、この季節の行事に親しむ心を育むとともに、キクの消費拡大やPRを目的とした活動に取り組んでいます。今年度も西諸県地域で栽培されたキクを、小林市内の生花店でフラワーアレンジメントにしていただき、管内の各市町、JA、NOSAI、振興局、普及センターにて展示しました。洋花とのアレンジは、仏花だけではなくキクの可能性を感じさせる美しさでした。



【キクを用いたアレンジ】

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

